



平成 26 年 6 月 16 日
海上保安庁

西之島の火山活動の状況（6月13日観測）

6月13日、羽田航空基地所属航空機（MA722 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。天候条件が悪く、一部の観測は実施できなかった。

1．噴火の状況

これまでの南側火口、北側火口、北側火口と南側火口の間火口の他に、北側火口の東側に新たな火口（東側火口）の全4カ所の火口を確認した。

南側火口を除く3カ所の火口から、白色及び青白色の噴煙を噴出するとともに赤熱した溶岩を盛んに放出していた。北側火口は最も活発で、約10秒毎に溶岩片の噴出を繰り返していた。南側火口では噴煙等の噴出は認められなかった。

新たに形成された陸地の東岸と西岸のそれぞれ1カ所で、溶岩流の海への流出に伴う水蒸気を上げていることを確認した。

西之島の火山活動は引き続き活発で、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径6kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

2．新たに形成された陸地の状況

天候条件が悪く、全体の形状や大きさのデータは取得できなかった。

なお、同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上教授からは、「南側火口では爆発は認められないものの、南側火口の東山腹から大量の水蒸気を放出しており、活動は活発な状態にある。北側火口と南側火口の間火口底には赤熱した溶岩が認められる。新たに確認された東側火口からは溶岩が湧き出している。これらのことから、溶岩の供給は現在も安定的に続いており、極めて活発な活動状態が続いている。」とのコメントが得られた。



図1 南側火口以外の3カ所の火口から大量の噴煙が噴出しており、赤熱した溶岩片の噴出を繰り返している。(6月13日撮影)

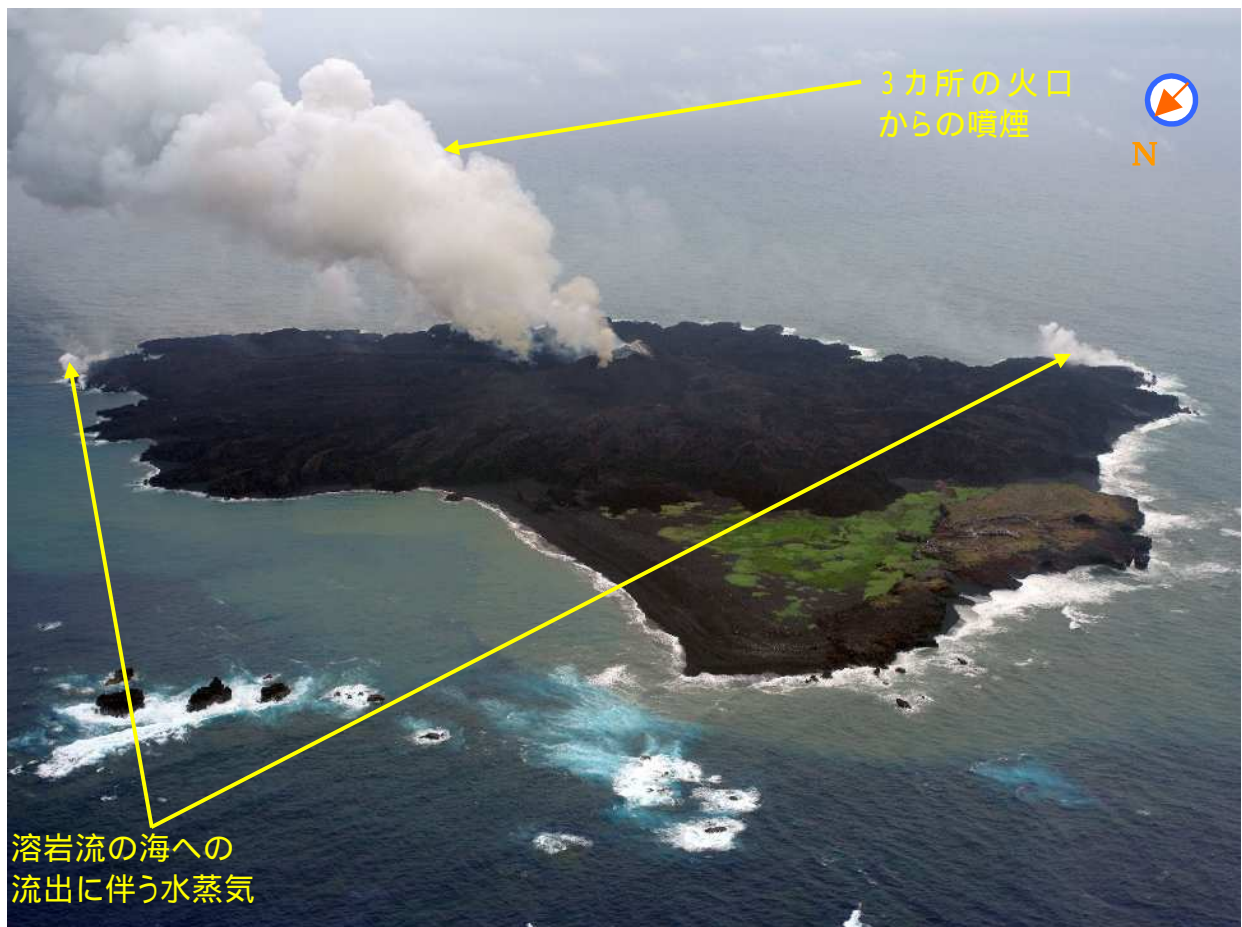


図2 西之島全景(6月13日撮影)
3カ所火口から大量の噴煙が噴出している。

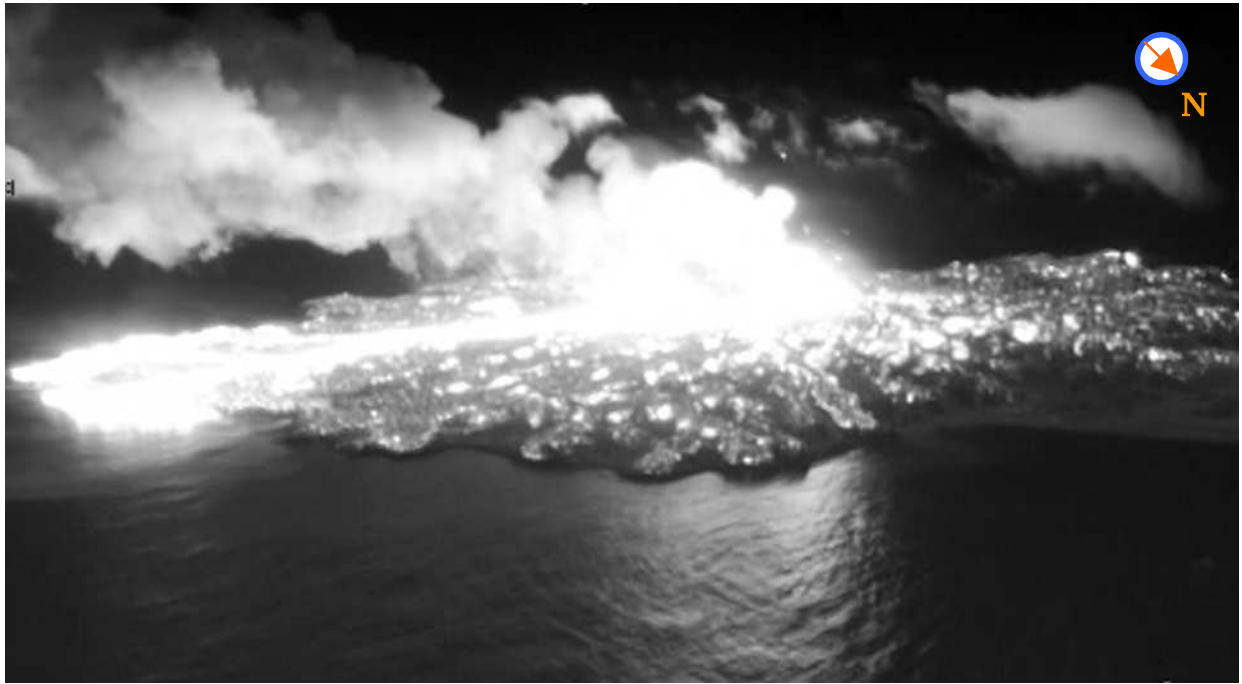


図3 西之島熱赤外線画像（6月13日撮影）
溶岩流が東側火口付近から東岸方向に扇状に広がっているのが確認できる。
（白色ほど高温であることを示す。）